令和３年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針

令和２年１月 29 日　一部変更
令和２年６月 30 日　一部変更

第１　問題作成の基本的な考え方

大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）は，大学（専門職大学，短期大学，専門職短期大学を含む。以下同じ。）への入学志願者を対象に，高等学校（中等教育学校及び特別支援学校高等部を含む。以下同じ。）の段階における基礎的な学習の達成の程度を判定し，大学教育を受けるために必要な能力について把握することを目的としている。このことを踏まえ，共通テストの問題は，以下を基本的な考え方として作成する。

○　大学入試センター試験における問題評価・改善の蓄積を生かしつつ，共通テストで問いたい力を明確にした問題作成

これまで問題の評価・改善を重ねてきた大学入試センター試験における良問の蓄積を受け継ぎつつ，高等学校教育を通じて大学教育の入口段階までにどのような力を身に付けていることを求めるのかをより明確にしながら問題を作成する。

○　高等学校教育の成果として身に付けた，大学教育の基礎力となる知識・技能や思考力，判断力，表現力を問う問題作成

平成 21 年告示高等学校学習指導要領（以下「高等学校学習指導要領」という。）において育成することを目指す資質・能力を踏まえ，知識の理解の質を問う問題や，思考力，判断力，表現力を発揮して解くことが求められる問題を重視する。

また，問題作成のねらいとして問いたい力が，高等学校教育の指導のねらいとする力や大学教育の入口段階で共通に求められる力を踏まえたものとなるよう，出題教科・科目において問いたい思考力，判断力，表現力を明確にした上で問題を作成する。

○　「どのように学ぶか」を踏まえた問題の場面設定

高等学校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

のメッセージ性も考慮し，授業において生徒が学習する場面や，社会生活や日常生活の中から課題を発見し解決方法を構想する場面，資料やデータ等を基に考察する場面など，学習の過程を意識した問題の場面設定を重視する。

第２　出題教科・科目の出題方法，問題作成のねらい，範囲・内容等

○　出題教科・科目の出題方法等

令和３年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テストにおける出題教科・科目等については「令和３年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト出題教科・科目の出題方法等」のとおり。

なお，高等学校学習指導要領に基づく学習範囲の中から出題されるという点については，令和２年度大学入学者選抜に係る大学入試センター試験と変更はないことから，過年度卒業者用の別問題は作成しない。

○　問題作成のねらい，範囲・内容

「第１」に示す問題作成の基本的な考え方を踏まえつつ，高等学校学習指導要領に準拠するとともに，高等学校学習指導要領解説及び高等学校で使用されている教科書を基礎とし，特定の事項や分野に偏りが生じないように留意する。

なお，高等学校における通常の授業を通じて身に付けた知識の理解や思考力等を新たな場面でも発揮できるかを問うため，教科書等で扱われていない資料等も扱う場合がある。

○　問題の分量・程度

問題の分量は，試験時間に応じた適切なものとなるように配慮する。

出題教科・科目に選択科目，選択問題がある場合は，選択科目間及び科目内選択問題間の平均得点率に著しい差が生じないように配慮する。

○　問題作成における配慮事項

障害等のある入学志願者への合理的配慮を踏まえ，情報の読み取りや解答の過程で想定される様々な困難さを考慮した上で，問題作成における問いかけの在り方や資料の提示の仕方，レイアウトの工夫等について配慮する。

第３　出題教科・科目の問題作成の方針

○　具体的な問題作成に当たっては, 出題教科･科目の問題作成の方針(別添)に基づき作成する。

第４　マーク式問題の新たな出題形式

○　マーク式問題の新たな出題形式として，いわゆる連動型の問題（連続する複数の問いにおいて, 前問の答えとその後の問いの答えを組み合せて解答させ, 正答となる組合せが複数ある形式）を「第２」に示す問題作成のねらい, 範囲・内容等を踏まえて，出題する場合がある。

第５　障害等のある入学志願者に対する問題の作成等

○　障害等のある入学志願者に対する合理的な配慮を行うため, 問題の作成に当たって, これまで大学入試センター試験で実施してきた受験上の配慮事項を踏まえた問題の作成（点字問題，拡大文字問題）等を行う。

第６　大学への成績提供等

○　大学に提供する成績の内容については，個人別成績データとして，得点合計，科目別得点等とする。

　また, 参考情報として科目ごとの９段階の段階表示及び国語における大問別得点*を提供する。

○　成績提供の日程については，令和２年６月頃に発出予定の「令和３年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施要項」において，次のとおりとする予定である。

---

*　大問別得点の詳細は，近代以降の文章（２問 100 点)，古典（古文（１問 50 点)，漢文（１問 50 点))

・　共通テストの成績提供日
　　令和３年２月８日（月）から行う。

○　共通テスト実施後に公表する資料については，従来，大学入試センター試験において公表している正解表等に加え，以下の資料を公表する。

・　マーク式問題の科目別得点と段階表示の換算表

（別添）

出題教科・科目の問題作成の方針

（１）国語

○　言語を手掛かりとしながら，文章から得られた情報を多面的・多角的な視点から解釈したり，目的や場面等に応じて文章を書いたりする力などを求める。近代以降の文章（論理的な文章，文学的な文章，実用的な文章），古典（古文，漢文）といった題材を対象とし，言語活動の過程を重視する。問題の作成に当たっては，大問ごとに一つの題材で問題を作成するだけでなく，異なる種類や分野の文章などを組み合わせた，複数の題材による問題を含めて検討する。

（２）地理歴史

（地理（地理 A，地理 B））

○　地理に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。地理的な見方や考え方を働かせて，地理に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，地理的な諸課題の解決に向けて構想したりする力を求める。問題の作成に当たっては，思考の過程に重きを置きながら，地域を様々なスケールから捉える問題や，地理的な諸事象に対して知識を基に推論したり，資料を基に検証したりする問題，系統地理と地誌の両分野を関連付けた問題などを含めて検討する。

（歴史（世界史 A，世界史 B，日本史 A，日本史 B））

○　歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず，歴史的事象の意味や意義，特色や相互の関連等について，総合的に考察する力を求める。問題の作成に当たっては，事象に関する深い理解に基づいて，例えば，教科書等で扱われていない初見の資料であっても，そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題，仮説を立て，資料に基づいて根拠を示したり，検証したりする問題や，歴史の展開を考察したり，時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する。

（３）公民

（現代社会）

○　現代社会の課題や人間としての在り方生き方等について多面的・多角的に考察する過程を重視する。文章や資料を的確に読み解きながら基礎的・基本的な概念や理論，考え方等を活用して考察する力を求める。問題の作成に当たっては，図や表など，多様な資料を用いて，データに基づいて考察し判断する問題などを含めて検討する。

（倫理）

○　人間としての在り方生き方に関わる倫理的諸課題について多面的・多角的に考察する過程を重視する。文章や資料を読み解きながら，先哲の基本的な考え方等を手掛かりとして考察する力を求める。問題の作成に当たっては，倫理的諸課題について，倫理的な見方や考え方を働かせて，思考したり，批判的に吟味したりする問題や，原典資料等，多様な資料を手掛かりとして様々な立場から考察する問題などを含めて検討する。

（政治・経済）

○　現代における政治，経済，国際関係等について多面的・多角的に考察する過程を重視する。現代における政治，経済，国際関係等の客観的な理解を基礎として，文章や資料を的確に読み解きながら，政治や経済の基本的な概念や理論等を活用して考察する力を求める。問題の作成に当たっては，各種統計など，多様な資料を用いて，様々な立場から考察する問題などを含めて検討する。

（倫理，政治・経済）

○　「倫理」「政治・経済」を総合した出題範囲から，上述の両科目の問題作成の方針を踏まえて問題作成を行う。

（４）数学（数学Ⅰ，数学Ⅰ・数学A，数学Ⅱ，数学Ⅱ・数学B）

○　数学的な問題解決の過程を重視する。事象の数量等に着目して数学的な問題を見いだすこと，構想・見通しを立てること，目的に応じて数・式，図，表，グラフなどを活用し，一定の手順に従って数学的に処理すること，及び解決過程を振り返り，得られた結果を意味付けたり，活用したりすることなどを求める。また，問題の作成に当たっては，日常の事象や，数学のよさを実感できる題材，教科書等では扱われていない数学の定理等を既知の知識等を活用しながら導くことのできるような題材等を含めて検討する。

（簿記・会計）

○　経済活動に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。簿記の基本的な仕組みについての理解を問う問題や，企業における日常の取引に関する記帳や基本的な決算手続きを問う問題などを作成する。また，「財務会計Ⅰ」の財務会計の基礎（株式会社の会計の基礎的事項を含む）についての理解も求める。なお，問題の作成に当たっては，教科書等では扱われていなくても，既知の簿記・会計の基本的な概念や原理・法則等を活用すれば，適正な会計処理を導くことのできる問題などを含めて検討する。

（情報関係基礎）

○　情報と情報技術についての科学的な探究の過程を重視する。問題の作成に当たっては，専門教育を主とする「農業，工業，商業，水産，家庭，看護，情報及び福祉」に設定されている情報に関する基礎科目を出題範囲としていることを踏まえ，情報及び情報技術の基本的な知識と，考え方，基本的なアルゴリズムの理解とそれを実現する方策，プログラミングやアプリケーションソフトウェアを活用したデータの処理や分析，問題解決の方法の理解を問う問題などを含めて検討する。

（５）理科

（物理基礎，化学基礎，生物基礎，地学基礎）

○　日常生活や社会との関連を考慮し，科学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則などの理解と，それらを活用して科学的に探究を進める過程についての理解などを重視する。問題の作成に当たっては，身近な課題等について科学的に探究する問題や，得られたデータを整理する過程などにおいて数学的な手法を用いる問題などを含めて検討する。

（物理，化学，生物，地学）

○　科学の基本的な概念や原理・法則に関する深い理解を基に，基礎を付した科目との関連を考慮しながら，自然の事物・現象の中から本質的な情報を見いだしたり，課題の解決に向けて主体的に考察・推論したりするなど，科学的に探究する過程を重視する。問題の作成に当たっては，受験者にとって既知ではないものも含めた資料等に示された事物・現象を分析的・総合的に考察する力を問う問題や，観察・実験・調査の結果などを数学的な手法を活用して分析し解釈する力を問う問題などとともに，科学的な事物・現象に係る基本的な概念や原理・法則などの理解を問う問題を含めて検討する。

なお，大学入試センター試験で出題されてきた理科の選択問題については，設定しないこととする。

（６）外国語

（英語）

○　高等学校学習指導要領では，外国語の音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどの知識を，実際のコミュニケーションにおいて，目的や場面，状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにすることを目標としていることを踏まえて，4 技能のうち「読むこと」「聞くこと」の中でこれらの知識が活用できるかを評価する。したがって，発音，アクセント，語句整序などを単独で問う問題は作成しないこととする。

○　「リーディング」「リスニング」ともに，ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）を参考に，各 CEFR レベルにふさわしいテクスト作成と設問設定を行うことで，A1 から B1 レベルに相当する問題を作成する。また，実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面，状況の設定を重視する。

○　「リーディング」については，様々なテクストから概要や要点を把握する力や必要とする情報を読み取る力等を問うことをねらいとする。

○　「リスニング」については，生徒の身近な暮らしや社会での暮らしに関わる内容について，概要や要点を把握する力や必要とする情報を聞き取る力等を問うことをねらいとする。音声については，多様な話者による現代の標準的な英語を使用する。

　読み上げ回数については，英語の試行調査の結果や資格・検定試験におけるリスニング試験の一般的な在り方を踏まえ，問題の数の充実を図ることによりテストの信頼性が更に向上することを目的として，1 回読みを含める。十分な読み上げ時間を確保し，重要な情報は形を変えて複数回言及するなど，自然なコミュニケーションに近い英語の問題を含めて検討する。全ての問題を 1 回読みにする可能性についても今後検証しつつ，当面は 1 回読みと 2 回読みの両方の問題を含む構成で実施することとする。

○　グローバル人材の育成を目指した英語教育改革の方向性の中で高等学校学習指導要領に示す 4 技能のバランスの良い育成が求められていることを踏まえ，「リーディング」と「リスニング」の配点を均等とする。ただし，各大学の入学者選抜において，具体的にどの技能にどの程度の比重を置くかについては，4 技能を総合的に評価するよう努めるという「大学入学共通テスト実施方針」（平成 29 年 7 月）を踏まえた各大学の判断となる。

（英語以外の外国語［ドイツ語，フランス語，中国語，韓国語］）

○　英語以外の外国語については，大学入試センター試験の枠組みを受け継いだ『筆記』テストを課し，「リスニング」テストは実施しない。

○　教科としての外国語科の目標である「外国語を通じて，言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，情報や考えなどを的確

に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」に基づき問題作成を行う。

また，実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面，状況の設定を重視する。

○　問題作成に当たっては，CEFR 等を踏まえた力を問うことをねらいとして作成する。

その際，大学教育の基礎力を踏まえ，また，高等学校において英語以外の外国語を初めて履修する者もいることを考慮し，問題作成を行う。